

平成30年度 海外インターンシップ報告書

信州大学 工学部 建築学科 3年

実習期間	平成30年 8月20日(月) ~ 9月3日(月)	14日間
実習企業	ACA KEMBI CO., LTD	
実習地	ベトナム ホーチミン市	

1. 実習目的

Chapter1 purpose

主に以下の3つの目的をもって参加した。

1. 進路、自分の適性や将来やりたいことを見極める手立てにするため。
2. 建築業界の実際の部分を自分の目で見るため。
3. 海外で仕事をする上での心構えを身につけるため。

2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

長野県に本社を置く長野県最大の組織設計事務所、ACA 設計の主に設備部門を請け負うベトナムに所在する事務所である。ACA 設計本社の物件の設備設計や環境シミュレーションを行ったり、ベトナムでの物件の設備設計を行ったりしている。ACA KEMBI は以上の業務に BIM を用いており、3次元建築モデルでの設計、主な風向風速などに対するシミュレーション、建築積算、設計工程管理や3次元構造モデルでの設計、構造積算、設計工程管理、3次元機械設備モデルによる換気・照明・熱負荷シミュレーションとその最適化など技術をもっている。

3. 実習日程

Chapter3 schedule

2週間の滞在のうち9日就業体験。

- 8月20日(月): 移動、ベトナム着、担当の山口さんと滞在中の生活の準備をする
- 8月21日(火): インターンシップ開始。オリエンテーション、トレース手伝い、昼食会
- 8月22日(水): トレース業務手伝い
- 8月23日(木): トレース業務手伝い、市内建築物見学
- 8月24日(金): トレース業務手伝い、環境シミュレーション学習
- 8月27日(月): 環境シミュレーション学習、市内建築物見学、取引先に同行
- 8月28日(火): 環境シミュレーション学習 (モデリング)
- 8月29日(水): 環境シミュレーション学習 (シミュレーション)
- 8月30日(木): トレース業務手伝い (AUTOCAD 学習)
- 9月1日(金): トレース業務手伝い (AUTOCAD 学習)、送別会
- 9月3日(月): 移動、日本着

4. 実習内容

Chapter4 laboratory

担当の山口さんと Tung さんのもとで以下の業務に参加（体験）させていただきました。

・トレース業務手伝い（前半）

Tung さんの担当物件のトレース（設備図）での文字（日本語）を解読する。手書きでクセの強い字で専門用語ばかりだったので難解だった。この作業で様々な設備の用語や仕組みを理解・学習できた。

・環境シミュレーション学習

環境シミュレーションは BIM (Revit) というソフトウェアを用いて行われる。私はそのソフトウェアに関する知識も技術もなかったのでその習得から始めた。基本的には独学であったが、Tung さんのサポートを得ながらチュートリアル建物のモデリングを行った。環境シミュレーションはモデリングののちに外部の気候条件や位置情報などを入力して行うものであったが、専門知識もないうえに英語版で難度が高かったため Tung さんに手伝っていただいた。

・市内建築物見学

市内の建物見学を 2 回した。1 回目は Tung さんと、2 回目は山口さんと取引先の訪問を兼ねて行った。

- ・ 1 回目：会社付近の建築物を見て回った。Tung さんのガイドによるもので、建築物以外にも観光ガイドや仕事の話などさまざまなお話を聞くことができた。
- ・ 2 回目：山口さんと新しい高層ビルの建設が進むビンタイン区にいった。Landomark81 や ACA KENBI が設備を担当した物件を見学した。そこで京王興産の財津さんの話を聞くことができた。そのあと、統一会堂にいき、併設されたカフェで様々な話を聞いた。

・トレース業務手伝い（後半）

AUTOCAD をもちいたトレース業務手伝い。これも独学での作業であったが、トレース業務手伝い（前半）のときに使用していたので案外スムーズに慣れることができた。実際には一枚も仕上げることができなかったが、基本的なコマンドは習得することができた。

5. 実習の成果（成長した事）

Chapter5 result

成果は

1. 建築設備や環境シミュレーション、CAD の知識や技術を得ることができた
2. 働くことに対する考え方が変わった
3. いまするべきことが明確になった
ことがあげられる。

1. インターンシップまでは建築設備の知識は授業で教わった程度にしか持っていなかった。しかし、今回の実習を通じて建築設備の知識を少しではあるが増やすことができた。また、Revit、AUTOCAD についても全く操作できなかったが、このように長い時間をかけてじっくり習得、練習できたことは有意義だった。
2. ベトナム人は定時きっかりに仕事を終えて、そのあとの時間を家族と楽しんだり友人とサッカーをしていたりした。このことから、仕事はあくまで生活の一部に過ぎないこと認識していると分かった。日本とは全く違う仕事観をみて、私自身の仕事への考え方が広がった。

また、ACA KENBI に在籍していた日本人のスタッフの山口さん、広瀬さんはお二方ともいくつもの職場を経験してきておられた。私は、就職は一度してしまったら定年退職までその企業のために尽くすものだと思っていたが、それは父親がただ単にそうであるだけであって実際は全くそんなことはないということが分かった。さらにお二方とも自身の力で働く環境を変えてこられた経歴をもっていた。つまり、働くことに対して受け身になってはいけないということが分かった。財津さんに「何のために会社をつくるのですか。」と聞いて、「究極的には社会貢献。」と即答されて、しばらくの間納得できずにいたが、ベトナムの方々の仕事に対する姿勢や、お二方が自分のできることを生かすために環境を変えてきたことなど、インターンシップ中にもその答えのようなものを見つけることができたと思う。

3. 広瀬さんとお話した時の「社会はいつでも血眼で一生懸命やるやつを探している」という言葉がとても心に残っている。私は、将来があまりにも漠然としていて、そのことに対する不安にかまけて頭で考えてばかりで何も行動に起こせていないところがあったと気が付いた。つまり、私がいまするべきことは、目の前のことを一生懸命することだということが分かった。何が起こるか分からないこの世の中だからこそ、その先のことを考えるのではなくて、変化してゆく世の中で少なくとも取り残されない、できればその先を行けるようになるように自分に課せられた使命（今なら学生生活）を全うする必要があるということだ。

6. 今後の課題

Chapter6 problem

私は今回のインターンシップで、明らかな知識・技術・経験不足を実感した。大学院への進学を含めて、専門的な知識の習得に努めたい。また、山口さん、広瀬さんはじめ、みなさまが本当に幅広くいろいろなこと知っていた。私も教養をつけて社会に出れるように努めたい。

7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

海外での体験は刺激的で価値のあるものです。就業体験は大学では学べないことを学べる貴重な機会です。2つが合わさってどうして価値が下がることがあるのでしょうか、いや、効果100増です。迷う機会があるあなたは恵まれています。それはこの機会の存在を知ることができたからです。ぜひ、海外インターンで驚きの体験をしてください。どんなにすごい本にも書いてない、自分だけの経験になること間違いありません。

8. 謝辞

Chapter8 Address of gratitude

建築業界について、社会の仕組みについて、マナーなどについても無知で、大変な迷惑をかけてしまったと自覚しております。ですが、進路選択のみならず、これからどのように考えて、生きていくか（そんなに壮大なものかは私自身わかりませんが）に何らかの変化が生まれたと感じています。2週間の間に、ただの海外旅行にならないように、ただのインターンシップにならないようにたくさんのお時間を用意してくださいました。このような機会を提供してくださったこと、貴重な時間を割いてくださったことは自分でいうことではないのかもしれませんが、私自身の血肉となるはずです。この経験を無駄にせず、いつかどのような形になるかはわかりませんがお世話になった皆様に恩返しできたらと思っております。本当にお世話になりました。ありがとうございました。